

当院における温熱療法治療中の取り組み

一般社団法人 玉名郡市医師会立 玉名地域保健医療センター
野田友美、三井友美、上門仁美、安田和史、井尾健剛、赤木純児

【はじめに】

がん患者は不安等さまざまな感情を抱えている。患者との対話は重要であり、治療中の患者が不安・苦痛なく対話しやすい環境作りに取り組んだので報告する。

【方法】

治療中に患者の好む音楽と、手足のマッサージやタッチングを施行し、患者の表情や言葉の変化を評価した。

【結果】

「時間が早く感じた」「楽しかった」「気持ち良かった」「話を聞いてもらってありがとう」などの言葉が聞かれた。

【考察】

がん治療の患者は精神的にも身体的にも負担が大きい。タッチングや好きな音楽を聴きながら日常会話から対話を広げ、リラックスした状態からさらに内面的な訴えが聞けた事は、話しやすい環境が提供できたのではないかと考える。今後も治療環境の改善に向けた取り組みを継続していきたい。